

ジネット

No. 8
ジネット

INTERVIEW

自分の信念に基づく診療をするなら
開業医がベスト。
診療環境も徹底的に
こだわり、作り上げた。

さいたま市武蔵浦和メディカルセンター
ただともひろ胃腸科肛門科 院長 多田 智裕 先生



自分の信念に基づく 診療をするなら開業医がベスト。 診療環境も徹底的にこだわり、 作り上げた。

さいたま市武蔵浦和メディカルセンター
ただともひろ胃腸科肛門科
院長 多田 智裕 先生

1996年東京大学医学部医学科卒業後、同年6月より東京大学医学部附属病院外科勤務。その後、国家公務員共済組合連合会虎の門病院麻酔科、東京都立多摩老人医療センター外科、東京大学医学部附属病院大腸肛門科などで勤務を経て、2005年より東葛辻伸病院外科にて肛門疾患を学ぶ。2006年7月ただともひろ胃腸科肛門科を開業、現在に至る。



責任は重いが、自分の信念に基づいた診療がしたい

大学で大腸・肛門科を選ばれた理由を教えて下さい。

多田：私は専門こそ決めていませんでしたが、外科医を志望していました。そのような中、当時、東京大学医学部第一外科の教授だった武藤徹一郎先生（現：癌研有明病院院長）の「大腸ポリープが癌に育つ（アデノーマ・カルシノーマ・シークエンス）」という言葉に感銘を受け、ならば「大腸内視鏡を定期的に行い、大腸ポリープを摘出すれば、大腸癌になる患者さんはいなくなるのでは」と考えました。それで、特に「大腸癌の予防」に興味を持って、大腸・肛門科を専攻することにしました。

研修中は大腸癌患者さんの治療にあたっていましたが、大学院に進学してからは、大腸癌発症予防を最終目標に、当時、東京大学医学部腫瘍外科の助教授だった渡邊聰明先生（現：帝京大学医学部外科学講座教授）の指導のもと、重複癌（2個以上の臓器に癌が発生してしまうこと）の

遺伝子の特徴を調べる研究を行いながら、臨床では主に大腸内視鏡検査と大腸ポリープの摘出に関わっていました。

大腸・肛門科といっても、大腸がメインだったわけですね。

多田：はい。そうです。ですが私は、大腸・肛門科である以上、肛門疾患もしっかり診察できるようにしたいと思っていましたし、患者さんの立場にたてば、そうあるべきだと思っていました。

それで、肛門疾患の診療を学ぶために千葉の東葛辻伸病院へ？

多田：そうです。なにしろ、ここは東関東圏最高峰の肛門科病院で、痔の手術が年間約4,000例と他に追随を許さない数を誇り、大腸内視鏡検査も年間10,000例超と積極的に実施していますからね。辻伸康伸院長には痔の診療ノウハウを徹底的に教えていただきました。また、院長には、当時、千葉県内では初の経鼻胃内視鏡を導入していただき、経鼻胃内視鏡検査も

数百症例ほど経験させていただきました。

胃内視鏡検査もされていたのですか？

多田：はい。実は、胃癌になる人は大腸癌になりやすく、逆もしかりで、内視鏡検査を行うのであれば、胃も大腸も診るべきです。ところが、診療科が専門分化されているような病院などでは、どちらか一方の内視鏡検査しか受けていない患者さんが多くいらっしゃいます。私は、大腸内視鏡検査を毎年受けていたのに、胃内視鏡検査を全く受けおられず、気づいたときは末期の胃癌だった患者さんを担当したことがあります。それでもどうしても胃内視鏡検査の経験を積みたかったのです。

肛門も大腸も胃も一度に診ることができますから診たいというわけですね。開業された理由は？

多田：組織の中にいれば、何事も合議制で進められるので、自分の思うようにできないことも少なからずあります。

■先ほどお話しされていたような、患者さんによかれど思っても、胃と大腸の内視鏡検査を同時に行ったりすることができないといったことですね。

多田：そうです。そして、「すべての責任をひとりで背負わなければならないけれど、信念のある診療をするには開業しかない」という気持ちが強くなってきたちょうどそのとき、全国最大級のメディカルモール『武藏浦和メディカルセンター』のプロジェクトで消化器外科を募集していることを知り、開業を決意しました。

「こうしたら良いのに」をすべてかたちにしたクリニックに

■では、クリニックは理想の肛門・大腸・胃の診療施設といえるものに？

多田：私がこれまで「こうしたら良いの

に」と想ってきたアイデアと、修行して得てきた知識・技術・経験のすべてをクリニックに注ぎ込んでいるといつても過言ではありません。患者さんは医者の愛想も腕も良く、施設も整っている病院に行きたいはずです。私はそういうクリニックをめざしています。

■理想とするクリニックを作る上で、設備面のこだわりを教えていただけますか。

多田：まず、スタッフと患者さんの動線が重ならないよう、かつ動きやすいようにレイアウトに配慮しました（図1）。また、電気コードなどの配線類はすべて床下に格納し、見た目が綺麗なだけでなく、動きやすく、掃除がしやすい（衛生的）ように配慮しました（写真1）。

それから、『肛門疾患（主に痔）の診断と治療』と『胃・大腸の内視鏡検査』が当クリニックの診療の大きな柱となっていま

すので、レーザー電気メスやデジタル肛門鏡/直腸鏡を配備した診察室（写真2）、日帰り手術/静脈麻酔による内視鏡検査（完全無痛）後に使用する回復室（写真3）、くつろげる日帰り手術・内視鏡検査専用の待合室（写真4）、前処置として下剤を使用する患者さんに対応するための広々とした5ヵ所のクリニック専用トイレ（写真5）などを設置するとともに、最新の内視鏡検査機器－NBI機能搭載内視鏡システム（光の波長を変えることで、従来の内視鏡では見えなかった病変特徴の強調表示が可能）、高精度の診断を提供する内視鏡業務支援システム、嘔吐反射を伴わない最新超極細（4.9mm）経鼻胃内視鏡（写真1）、世界標準レベルの機器洗浄を行う内視鏡洗浄機器（写真6）などを導入しました。

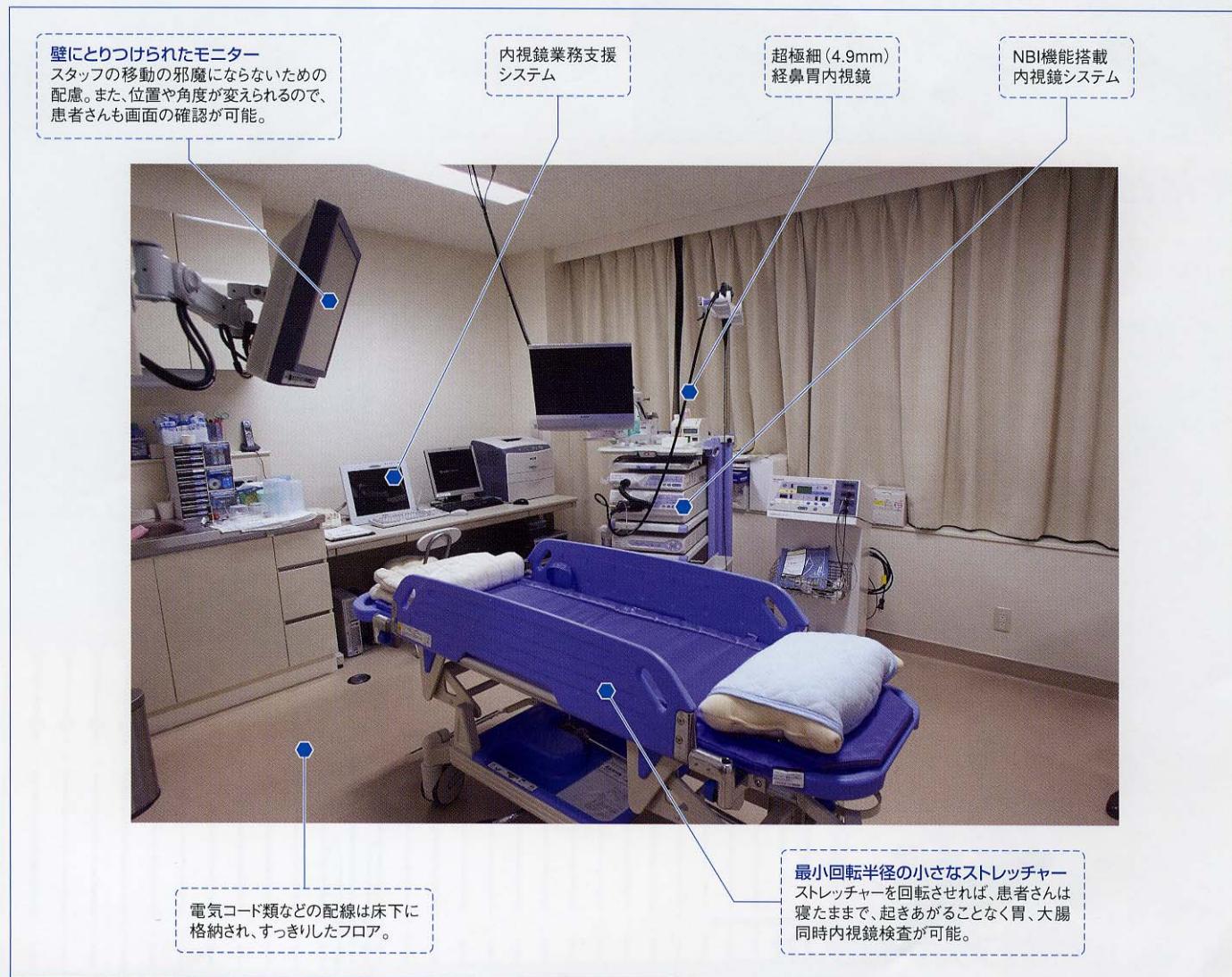


写真1 内視鏡検査室

写真2 診察室

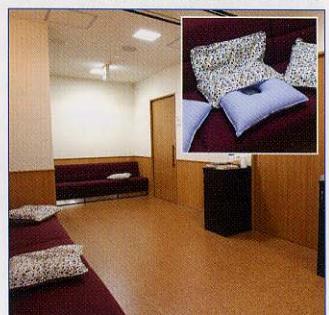
検査・処置ベッド横のスペース上部にカーテンを設置。
着がえる姿をスタッフに見られないことが、女性の患者さんには好評とか。

**写真6 世界標準レベルの機器洗浄を行う内視鏡洗浄機器**

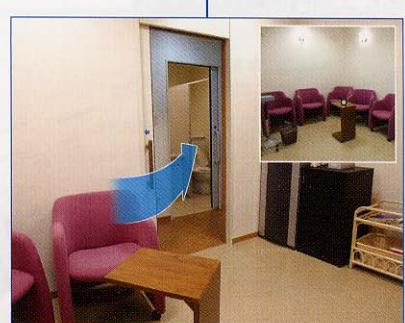
処置器具は一式すべて使い捨てで、感染制御に万全を尽くしている。

**受付カウンター****待合室**

円座はクッションカバーをつけてさりげなく。

**写真3 回復室**

日帰り手術や内視鏡検査を受けた患者さんは、ストレッチャーに寝たままで、回復室へ移動できる。

**写真5 クリニック専用区域内のトイレ****写真4 日帰り手術・内視鏡検査専用待合室**

下剤など前処置を受けた患者さんがすぐトイレにいけるように配慮されている。

■設備面のこだわりは、「こうしたら良いのに」という想いをかたちにするためのものなのですね。

多田：ご指摘のとおりです。診察室にレーザー電気メスを配備しているので、肛門鏡/直腸鏡で検査すると同時に簡単な処置・手術を行うことが可能です(写真7-1)。また、患者さんはストレッチャーに寝たままで、起きあがることなく大腸と胃の内視鏡検査を受けること(胃内視鏡検査10分、大腸内視鏡検査15分で検査時間は25分程度)ができる、回復室で休むことができます(写真1、3)。そのほかに、痔の日帰り手術や大腸内視鏡検査を受けられる患者さんは下剤の前処置を行うのですが、これを嫌がる患者さんが多くいらっしゃいます。なぜなら、他の患者さんに気兼ねなくゆっくり待てるスペースがなかったり、トイレが遠かったりする病院が多いからです。そのため、当院では、専用の待合室を設け、すぐトイレにも行けるように配慮しました(写真4)。

■トイレの数も多く、実際、患者さんは助かっていると思います。

多田：患者さんには肛門疾患の診察や内視鏡検査を“気軽に”受けてほしいと考えていますから、設備投資はそのためのひとつ手段です。そして、患者さんの検査や診察に対する不安を解消し、気軽にそれらを受けてもらえるようになる、もうひとつの大切な手段は情報開示だと思っています。

図2 上部内視鏡検査報告書

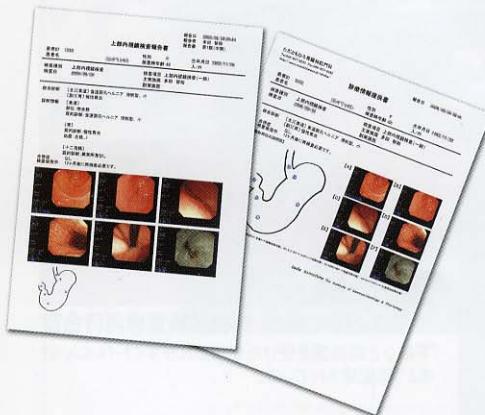


図3 診療情報提供書

■具体的には？

多田：たとえば、診察室にはWACOM社製のペンタブレット式21インチ大画面モニターを設置し、画面上にペンタブレットでイラストを描いて、患者さんに病状を分かりやすく説明しています(写真8)。また、診察室には、無線LANでつながっているコンピューターの端末があるので、検査後や処置後にすぐにその場でどのような診療を行ったかを患者さんに説明することもあります(写真7-2)。

内視鏡業務支援システムで得られた結果は、専門医同士がやりとりする報告書(図3)を作成し、それをお渡しするようになっています。

日帰り手術の患者さんは、万一の出血に備えて私の携帯番号を伝えていますし、日帰り手術が難しい患者さんは東葛辻伸病院と連携をとっています。東葛辻伸病院は千葉ですので、当クリニックの近隣の患者さんの場合は手術入院時のみ病院に行けばすむように、入院予約をFAXで行うほか、入院前の検査や退院後の処置をすべて当クリニックで行うようにしています。

そのほか、私と患者さんの双方のコミュニケーションが可能で、なおかつリアルタイムに情報を更新できるよう、ブログ形式のクリニックホームページを運営しています。検査の予約状況などがリアルタイムで分かるので、患者さんの評判は上々です。



写真7-1 検査の様子



写真7-2 検査後の説明

無線LANでホストコンピューターとつながっているため、その場で診療内容の説明が可能。



写真8 WACOM社製ペンタブレット式21インチ大画面モニターを使って説明

■先生の「痔をこじらせないでほしい、癌になってほしくない。だから、気軽に診察・検査を受けて」という優しい気持ちが伝わってきました。また、ご自身の信念に基づき理想とするクリニックを作り上げていく、そんな姿勢に感銘を受けました。

実際、開業して1ヵ月足らずの時点での日帰り手術が1~2件/日、内視鏡検査が5~6件/日とのことですから、患者さんに先生の思いが伝わっているような気がします。本日はどうもありがとうございました。

HOSPITAL DATA



ただともひろ胃腸科肛門科

〒336-0021
埼玉県さいたま市南区別所7-2-1 MUSE CITY ザ・ファーストタワー 2F
TEL : 048-837-9333
FAX : 048-837-9292
<http://www.musashiurawa.jp/ichoka/>

診療科目：胃腸科・肛門科・外科
診療時間：9:00~13:00(土曜・日曜は9:00~12:00)
15:00~19:00(日曜は13:00~17:00)
休診日：水曜日・土曜午後・祝祭日